

気管支喘息とその原因

冬には、風邪をきっかけに気管支喘息を発症する子どもやおとなが、外来によくみえます。風邪は誘因に過ぎず、風邪で弱った気管支や肺に、アレルギー反応が引き起こされているのです。

今は、ステロイド吸入剤を使い、すぐ抑えることが重視されていますが、それで済ませるわけにはいきません。できるだけ早く、ステロイド吸入が必要のない状態に、しなくてはならないからです。さらにアレルギーマーチにより、新たなアレルギー症状が出現するのを防がなくてはなりません。

そのためには、弱った呼吸器系にアレルギーを引き起こしている原因について、究明していかなくてはならないのです。

一人ひとり顔が違うようにアレルゲンが違うのですが、共通する部分も見られます。吸入性アレルゲンでは「羽毛」が多くみられます。ダウンコートよりも羽毛布団のほうに反応することが多いです。中にはインコなど鳥を飼っていて喘息発作を起こしていることもあります。猫、ハムスター、ウサギ、などのペットの毛やふけもよく発作につながります。自分では飼ってなくても、お隣さんやお友達が飼っているだけで、症状が出てしまうこともあります。ハウスダストやダニは、その抗体の高さに比して強い症状が出てくることは、余りありません。また、羽毛以外の寝具の素材では、稀ですが、ウール、絹、ナイロン、ウレタン、ポリエステル、アクリルなども喘息を起こすことがあります。それぞれ確定して取り除いてもらうと、1 か月もしないで良くなります。このような吸入性抗原のみではなく食物抗原の場合もあります。

食物抗原の場合は、それこそ多彩です。経口免疫療法の増やし過ぎで喘息が起こっていても、蕁麻疹や湿疹ばかり見ていたのでは、気が付きません。また肉類で発作が起こっていた幼児は、母親が肉を与えると、ペっぺっと吐き出していたそうですが、自分には危険な食べ物とわかっていたのですね。大体において、大人よりは子どものほうが本能的には賢いのです。食品添加物でも喘息を起こすことがあります。香料や着色料、スターリンクトウモロコシのような遺伝子組み換え、残留農薬、など数え上げたらきりがありません。世の中から安全な食べ物が少なくなり、しかも輸入に頼る自給率 30% 台のこの国の食の問題は深刻です。

次に、大気の汚染による喘息など呼吸器疾患の増加も大きな問題です。P.M2.5~0.5, 黄砂などは肺に相当な負担を与えていると思います。ホルマリン、トルエンなどの新建材による被害は、最近減ってはきていますが、まだまだ気をつけなければなりません。室内の汚染の最大のものは、タバコです。難治性の喘息を患っていた兄弟の主原因は父親のたばこの煙でした。ある日、ニコニコ顔の兄弟と母親が来ました。喘息は全く出ていないし、顔色もよく、元気でした。そして父と母は離婚したと言われました。元気になってよかったね、といいましたが複雑な気持ちでした。依存症は周りを巻き込んで不健康やトラブルを作り出すのですね。

メンタルの問題も喘息には大きな影響がありますが、これは、次に取り上げる課題とします。